

< 渡良瀬遊水池湿地保全・再生委員会報告資料 >

2018.11.19

渡良瀬遊水地野鳥観察会活動報告

渡良瀬遊水地野鳥観察会

- 1 第 89 回渡良瀬遊水地野鳥観察会（遊鳥会）定例観察会資料（平成 30 年 9 月 15 日）
- 2 第 90 回渡良瀬遊水地野鳥観察会（遊鳥会）定例観察会資料（平成 30 年 11 月 17 日）
- 3 渡良瀬遊水地野鳥観察調査結果（渡良瀬遊水地野鳥観察会）
- 4 渡良瀬遊水地野鳥観察会オオセッカ生育調査観察記録
- 5 渡良瀬遊水地チュウヒの繁殖調査の報告（概要）
- 6 渡良瀬遊水地と周辺の野鳥たち
- 7 「渡良瀬遊水地と周辺の野鳥たち」野鳥の名前と作成意図

第 89 回 渡良瀬遊水地野鳥観察会（遊鳥会）定例観察会資料（平成 30 年 9 月 15 日）

<前回の観察会から>



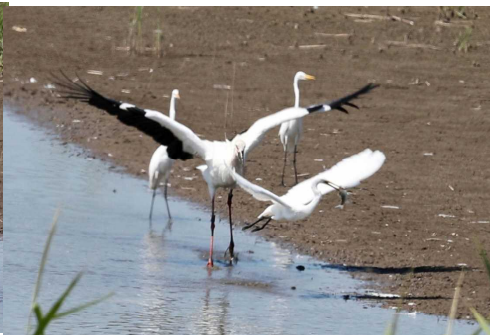
前回（8 月 18 日）は [] からツバメのねぐら入りを観察しました。当日は、天気はよく、夕焼けがきれいでした。桜堤方面にムクドリが群れが現れ、ヨシ原にねぐら入りしました。夕闇近くでは、 [] において水面近くを飛行する多数のツバメが観察され、その後、 [] にねぐら入りしました。その上空では、万を超えるツバメを観察することが出来ました。その後の観察会でも、ねぐら入りの場所は同じでした。また、カヤネズミの巣も観察しました。

<鳥便り>①

[] を生活の場としているコウノトリ（ヒカル君）が、環境学習フィールド（3）でエサを捕る様子を観察出来ました。昨年はサギ達は逃げていたのに、今は逃げなくなりました。仲間として認めたようです。ヒカル君がエサ取りを始まると、サギ達はその様子を観察しています。ヒカル君は魚を捕まえると水辺に運び、水中に放します。9 匹捕まえ、食べられたのは 1 匹だけです。その逃げる魚をサギ達は狙っています。捕るのは上手になりましたが、食べるのはまだまだのようです。野田市で今年生まれ放たれたコウノトリが、小美玉市のハス田で死にました。理由は、ハス田に張られている防鳥網にかかって傷つき、死んだものです。「野鳥」2018 年 7 月号で、茨城のハス田の防鳥網が問題として取り上げられたばかりです。NHK「里山」では、鳴門市のハス田でコウノトリの夫婦が子育てし、ヒナが巣立っている様子を取り上げていました。ハス田は無農薬、有機肥料で、質のよいレンコンが栽培されていました。そこには、たくさんの生物が生活し、コウノトリがエサとしていました。茨城の実態との差に愕然としています。



<仲間に入れて>



<ボクのだ、返せ！>



<やっと食べられた>

②小山市が中心となり取り組んでいる夏水田圃にサギ類やシギ・チ類がやってきています。ハジロクロハラアジサシも仲間入りです。シオカラトンボを捕まえました。



<アオアシシギ>



<アメリカウズラシギ>



<ハジロクロハラアジサシ>

<第 2 調節池の鳥類調査について>渡良瀬遊水地保全・再生モニタリング委員会では、第 2 調節池における野鳥モニタリング調査を計画しています。遊鳥会では「栃木市フィールド」（大型鳥採餌休息環境実験地・湿潤環境形成実験地）を担当したいと考えますが、ご意見をお聞かせください。

<写真展について>開催日時：10 月 19 日（金）～ 28 日（日）10：00～15：00、場所：体験活動センター わたらせ、準備：10 月 17 日（水）、18 日（木）パネル準備・展示、尚、掲載候補写真については、9 月中に写真とコメントをデータで欲しいとのことです（松岡さん）。目的：遊鳥会の活動報告や遊水地の野鳥の実態や変化等を写真を通して示し、遊水地の環境変化への理解を深める。再掲示も可。例：①オオセッカ・チュウヒ・コウノトリコーナー、②お気に入りの写真コーナー（コメント入り）

第90回 渡良瀬遊水地野鳥観察会（遊鳥会）定例観察会資料（平成30年11月17日）

＜前回の観察会から＞ 前回（10月20日）は利根川上流河川事務所より依頼されました「大型鳥採餌休息環境実験地」の鳥類調査を行うと共に「環境フィールド2・水位安定型実験地」についても鳥類調査を行いました。大型鳥採餌休息環境実験地では、XXXXXXXXXXで調査しました。結果は、ダイサギ、アオサギ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、オオバン、ホシハジロ、カルガモ、トビ、ホオジロ、ツグミ、モズ、オオジュリン、カワラヒワ、ヒバリの14種が観察されました。また、XXXXXXXXXX、



ダイサギ、カンムリカイツブリ、コガモ、マガモ、トビ、オオタカ、ホオジロ、カワラヒワの8種が観察出来ました。まだ、カモ類の飛来は少ない状況でした。その後の調査結果を含め、別紙にのせました。鳥類調査は、年4回計画し、次回は1月に予定しています。ご協力をお願いします。

＜コガモ：齋藤 10/20＞

＜キンクロハジロ：11/2＞

＜野鳥写真展＞ 10月20日より28日の8日間、体験活動センターにおきまして、「渡良瀬遊水地野鳥観察会写真展」を開催しました。今回のパネル展示は、①遊水地における夏の代表オオセッカ、②冬の代表チュウヒ、③10市町が参加する「渡良瀬遊水地エリア検討部会」における指標鳥コウノトリ、④遊水地周辺に飛来する野鳥達（エリア検討会の目的：「多様な生物の生息可能な自然環境保全・再生の推進」）、⑤会員お気に入りの野鳥写真、で構成しました。会期中の来館者総数は447名（含：会員47名）です。写真の提供、準備、受付、来館者への説明、片付けと会員の皆様のご協力により盛大な写真展となりました。ありがとうございます。



野鳥の飛来が例年より遅いと感じていましたが、11月になりやっと冬鳥達がやってきました。XXXXXXXXXXヨシ原にはチュウヒが罅入りし、連日カメラマンで混雑しています。谷中湖には、マガモが群れ、カンムリカイツブリが多数飛来しました。地内水路にはミコアイサが飛来し、手前の2つの沼には、ヨシガモ、ホシハジロが群れています。谷中村役場跡では、シメが飛び回っています。コウノトリは、「きらら」と「きずな」が遊水地や板倉町に来ました。「ひかる」君一人ではなくなるかもしれません。

＜鳥便り＞ 野鳥の飛来が例年より遅いと感じていましたが、11月になりやっと冬鳥達がやってきました。XXXXXXXXXXヨシ原にはチュウヒが罅入りし、連日カメラマンで混雑しています。谷中湖には、マガモが群れ、カンムリカイツブリが多数飛来しました。地内水路にはミコアイサが飛来し、手前の2つの沼には、ヨシガモ、ホシハジロが群れています。谷中村役場跡では、シメが飛び回っています。コウノトリは、「きらら」と「きずな」が遊水地や板倉町に来ました。「ひかる」君一人ではなくなるかもしれません。

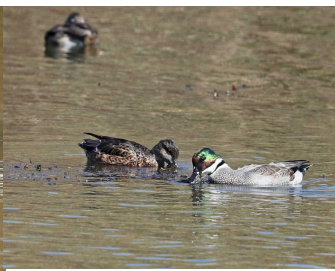
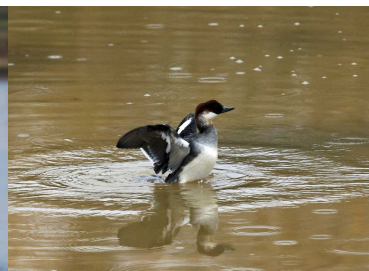


＜カシラダカ：齋藤＞

＜ツツドリ＞

＜ジョウビタキ＞

＜チュウヒ＞



＜マガモ＞

＜ミコアイサ＞

＜ヨシガモ＞

＜コウノトリ：きらら＞

＜今回の観察会＞ XXXXXXXXXX 谷中湖のカモ類、カイツブリ類等の水鳥や樹林・ヨシ原・上空の野鳥達を観察します。尚、12月は野木官地を歩き、樹林の野鳥達を観察します。1月は、午後チュウヒの罅入りを観察します。尚、午前中も参加可能な方は大型鳥採餌休息地の調査をしますのでご協力下さい。

渡良瀬遊水地野鳥観察調査結果（渡良瀬遊水地野鳥観察会）

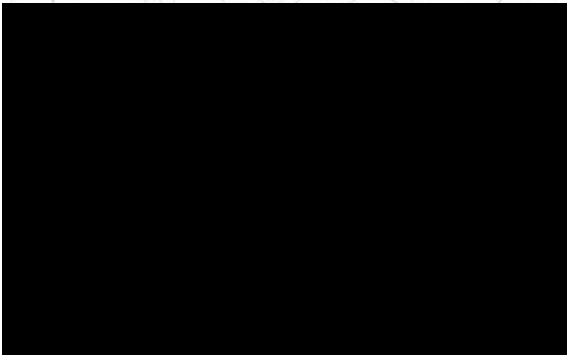
調査日 2018年10月20日～11月2日

調査箇所:						
調査方法:		晴				
日付		10月20日	10月26日	10月28日	11月2日	10月20日
No	種名	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数
1	ダイサギ	3	2	2	2	2
2	カイツブリ	3	2	5	4	
3	カンムリカイツブリ	1	1		3	1
4	オオバン	4	8	9	8	
5	アオサギ	1	2		1	
6	ホシハジロ	2				
7	カルガモ	12		3	5	
8	キンクロハジロ		2			
9	カワウ		1		4	
10	コガモ		3		13	29
11	ハシビロガモ			2		
12	マガモ				41	3
13	ヒドリガモ				7	
14	タゲリ				18	
15						
16	トビ	1			2	1
17	チュウヒ		1			
18	ノスリ				1	
19	オオタカ					1
20						
21						
22						
23						
24	ホオジロ					2
25	ミヤマガラス				約200	
26	ホオジロ	2				
27	ツグミ	1				
28	モズ	3	4		1	
29	オオジュリン	2			1	
30	カワラヒワ	2	1		3	2
31	ヒバリ	2				
32	オナガ		3			
33	スズメ		3		8	
34	ジョウビタキ		1		3	
35	キジ				1	

※確認方法は、V(目視)、S(さえざり)、C(地鳴き)の略

※利用環境は、水面、ヨシ原、上空等 行動は、休息、採餌、飛翔等

1 オオセッカの生育調査について



- ① 方法 オオセッカの囀り（♂）と目視で行う。
- ② 調査場所 [Redacted] にいたる道路を [Redacted] に分け、その2カ所を歩きながら行う。

2 生育調査結果

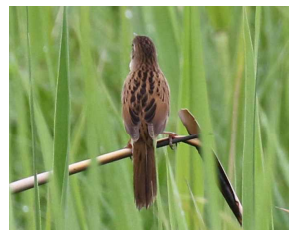
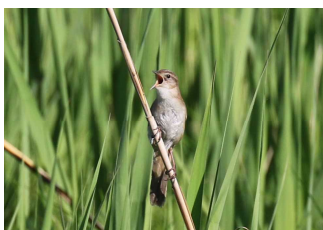
オオセッカ生息調査結果（2010年～2018年）

実施期日	確認数			備考
	[Redacted]	他	計	
2010.(H22)	4羽		4羽	
2011.(H23)	5羽	2羽	7羽	
2012.5.19(H24)	8羽	4羽	1羽	13羽 すべて生育の悪いヨシとスゲなどの混成した草原 5月3日大雨、[Redacted] [Redacted]
2013.5.18(H25)	8羽	13羽		21羽 ヨシ焼きが2年ぶりに再会 小雨量
2014.5.17(H26)	8羽	4羽	3羽	15羽 [Redacted]
2015.6.20(H27)	18羽		1羽	19羽
2016.5.21(H28)	20羽			20羽
2017.5.20(H29)	24羽	5羽		29羽 スゲ優先の草原が拡大傾向。
2018.5.19(H30)	16羽	3羽		19羽

3 調査結果より

[Redacted] のオオセッカは、遊鳥会の調査では増加傾向にあると考えられます。今年度、確認数は減少しましたが、その後の囀りや飛翔を観察していると、数は多いと感じられています。また、[Redacted] において、オオセッカの囀りが聞こえ、繁殖地を広げていると感じられます。昨年、[Redacted] でオオセッカの囀りを聴くと共に、巣を見たとの情報があります。そこは、状態のよいスゲが多数生えているとのことでした。

尚、国土交通省では、第二調節池掘削に際し、スゲが育つように浅い掘削地を造っています。（小山市掘削地東側）貴重なオオセッカが、渡良瀬遊水地で数多く繁殖してくれることを願います。



渡良瀬遊水地 チュウヒの繁殖調査の報告（概要）

平成 23 年 3 月 11 日に発生した、東日本大震災による福島第 1 原発事故によって各地の放射線量が上がり、それとの関連で、例年 3 月に行なわれてきた、渡良瀬遊水池のヨシ焼きが 23 年と 24 年は、連続して中止となりました。

渡良瀬遊水池のチュウヒはヨシ焼きの影響で繁殖できないでいる、という意見が出されてきた経過と現状を踏まえ、渡良瀬遊水池野鳥観察会（遊鳥会）では、ヨシ焼き中止を機会に、従来からの「猛禽類の生息調査」に変えて「チュウヒの繁殖調査」を実施することにしました。

調査の方法は、「定点調査」とし、それに会員、協力者からの随時の情報を参考として加えたものです。

実施時期は 3 月の第 3 土曜日とし、ヨシ焼きと同日の場合はその前の週としました（変更もあり）。

定点は

① [REDACTED]、② [REDACTED]、③ [REDACTED]、④ [REDACTED]、⑤ [REDACTED]、⑥ [REDACTED]
⑦ [REDACTED]、⑧ [REDACTED]

とし、観察記録として地図並びに調査票に、飛行軌跡、止まり、並び止まり、誇示止まり、波状飛行、急降下、並行飛行、アクロバット飛行、巣材運搬など繁殖活動の一環として記録することとしました。また、定点等は事前調査の状況により変更することとしました。

調査結果の主なものを時系列に挙げると

(1) 平成 23 年 4 月 16 日 準備不足であったので、定点は②、⑤、⑧の 3 箇所としました。調査では②で [REDACTED] でディスプレイフライとするチュウヒが確認されています。随時調査では、4 月 24 日、5 月 5 日には激しく波状飛行をしながら [REDACTED] に向かい、再び低空で波状飛行を繰り返すチュウヒを確認しています。

その後、川越市在住の市川氏から、チュウヒが [REDACTED] で営巣したという情報の提供がありました。しかし、7 月に入り、炎天下の巣にカメラマンがブラインドを設置して張り付き、親鳥が巣に戻り強い日差しからヒナを守ることが出来ずに、ヒナは斃死したとのことでした。

(2) 平成 24 年 1 月 6 日、1 月 16 日 随時調査 湿地再生地の、[REDACTED] [REDACTED] にチュウヒがパーチ。全体が薄茶で、腰が白く、尾羽は明るい薄茶で細い横帯が目立ち、虹彩は黄色。2 3 年に営巣したオスと同一個体(?)。1 月 17 日には、タカ見台東斜面に、30 センチほどの細長いものを足に持って、チュウヒ飛来。[REDACTED] にパーチしていたものと同一個体。時期的に、擬似的な巣材運搬。その後は姿を見せなくなり、繁殖はありませんでした。

(3) 平成 25 年 3 月 16 日 ②、③、⑤、⑥、⑦に定点を置いて調査。定点①では出現個体 4 羽で、誇示止まりと思われる行動がありましたが、繁殖活動と言えるかどうか判断は出来ませんでした。定点⑤でも誇示止まりがあり、その場所に固執していて、繁殖活動の 1 つかと思われました。随時調査では、3 月 25 日に 16 日の定点①の誇示止まりを再確認しています。

しかしこの季も繁殖はありませんでした。

(4) 平成 26 年 繁殖なし。

(5) 平成 27 年 3 月 21 日 調査会社のチュウヒの繁殖調査が 3 月 11・12 にありました。[REDACTED] [REDACTED] で、弱い縄張り争いや、2 羽の追いかけっこが観察されたが、確たる繁殖活動はなか

ったそうです。

我々は調査会社の助言を受け、定点は①、③、④、⑤、⑦の5箇所におきました。

①では2個体が同時に出現、高度を上げて消失、③では■■■■を転々とする7個体のチュウヒが確認され、そのうちの2組が高度上げてのアクロバット飛行をするのを確認しています。その他の定点でも、ディスプレイフライトや誇示止まりと思われる行動が観察されましたが、巣材運搬や求愛給餌など、繁殖に結びつく行動は観察されませんでした。

随時調査 翌22日にはヨシ焼きが実施されました。定点③の■■■■のチュウヒに繁殖の期待を掛けていたのですが、■■■■に火が入ることはないのにも拘らず、28日の随時調査ではチュウヒの確認はゼロ、4月4日1羽だけの観察になりました。

この季もチュウヒの繁殖はありませんでした。

(6) 平成28年3月12日 定点は②、③、⑤、⑥、⑦の5箇所に置きました。②では出現数2個体、③は2個体、⑤では3個体、⑥ではチュウヒの出現なし。⑦は1個体だけの確認でした。

繁殖活動はいずれもありませんでした。

(7) 平成29年3月11日 定点は②、③、④、⑥、⑦、⑤の6箇所に置きました。⑤は湿地再生工事が進行中で除外したのですが、会員から実績のある定点だから置くべき、との意見により加えたものです。②では波状飛行と誇示止まりが、⑥では誇示止まり1個体、アクロバット飛行する1組が確認されました。⑤ではトビと並行飛行をしながら浅い波状飛行をするものが観察されたが、トビに対する誇示行動と思われる。

この季もチュウヒの繁殖はありませんでした。

(8) 平成30年3月10日 定点は②、④、⑥、⑦の4箇所に置きましたが、いずれも繁殖に関わる活動は確認できませんでした。

所見

チュウヒの本州での繁殖地は、海に近い湿地であると考えていました。ところが平成23年、東日本大震災による原発事故のかかわりで、毎年3月中旬に行なわれてきた恒例のヨシ焼きが2年間中止になり、その初年にチュウヒが営巣し、ヒナは巣立ちには到りませんでした。内陸湿地である渡良瀬遊水地でもチュウヒが繁殖し得ることを、チュウヒと同じように、海に近い湿地環境で繁殖するとされているオオセッカが、内陸湿地であるここ、渡良瀬遊水地で繁殖していること重ね合わせて考えて見たりしました。

チュウヒの繁殖を阻害する要因がヨシ焼きにあるとすると、幾つかの疑問に突き当たります。疑問を列挙しますと、①ヨシ焼きが始まる昭和38年依然にチュウヒ繁殖の記録、痕跡が無いのは何故か？ ②ヨシの消失率が50パーセント以下の年も幾度もあり、チュウヒも多数が残っていたが、繁殖はなかったのは何故か？ ③平成23年の営巣のとき、4月下旬に一度巣が放棄され、5月中旬に場所を変えて再度営巣したことから、3月にヨシ焼きがあったとしても、5月中旬にはヨシの背丈も伸び、焼け残りの枯れヨシもあり、23年には5月に営巣していることから、時期的に繁殖は可能と考えられるが繁殖しないのは何故か？ ④原発事故によるヨシ焼きの中止は、翌年にも及んだが、繁殖がなかったのは何故か？ などの疑問があり、繁殖阻害の要因がヨシ焼きにあるとする説には疑問を感じます。■■■■のチュウヒの活動を見て、繁殖を期待したことがあります。翌日のヨシ焼き以降チュウヒがほとんど姿を見せなくなったのは、気象などの条件で繁殖地に移動する時季には幅が生じると考えられますが、たまたま、移動の時期であったためなのかもしれません。

平成 23 年のチュウヒの営巣は、東日本大震災で引き起こされた大津波によって海に近いチュウヒの繁殖地が被害を受け、繁殖期の初期でもあったことから、緊急避難(?)的に、渡良瀬遊水地での営巣を選んだのではないかと思います。

生き物は、その種が長い時間を掛けて習得した習性と言う束縛を受けながら、その種らしい姿で生きています。そしてその種が何かを契機に本来の習性から開放されることがあります。例えば、関東では不忍池に少数が生息していたカワウが、池の改修工事をきっかけに大繁殖したという例もあります。

国内で繁殖するチュウヒにはそれなりの「習性」があります。大震災の津波による繁殖地の喪失を契機に、内陸湿地の渡良瀬遊水地で営巣したということは出来るかもしれません。それが、人による繁殖妨害によって繁殖に失敗し、それによって翌年に営巣が継続しなかったのだとすればまことに残念至極です。

なお、利根川下流域のチュウヒの繁殖地の地形、植生の資料と、渡良瀬遊水池のそれを比較してみたのですが、特に地形には差があるようです。

(平成 30 年 10 月 19 日)

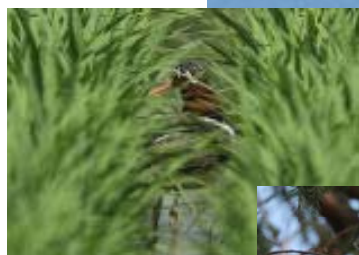
渡良瀬遊水地と周辺の野鳥たち

栃木市

小山市



板倉町



野木町



加須市



古河市



遊水地



「渡良瀬遊水地と周辺の野鳥たち」

【写真の野鳥の名前】

- ① 栃木市（左上）
（右上）チョウゲンボウ （左中）オオハクチョウ （右下）コウノトリ
- ② 小山市（右上）
（左上）ダイサギ、アマサギ、コサギ
（中上）チュウサギ、アオアシシギ、セイタカシギ
（左下）ハジロクロハラアジサシ
（左下）エリマキシギ （中下）タカブシギ、タシギ （右下）ツバメチドリ
- ③ 板倉町（左中）
（右上）チョウゲンボウ （左中）タマシギ
（右中）ツツドリ （左下）ヨシゴイ
- ④ 野木町（右中）
（上）サシバ （中）ツミ （下）チョウゲンボウ
- ⑤ 加須市（左下）
（左中）コウノトリ （右上）ムナグロ （右下）キアシシギ
- ⑥ 古河市（右下）
（左上）カワセミ （右上）フクロウ（ヒナ）
（左下）アオバズク （右下）ツミ
- ⑦ 渡良瀬遊水地（下）
＜上左より＞
チュウヒ ミサゴ オオセッカ オオヨシキリ ベニマシコ
＜下左より＞
カモの群れ ミコアイサ カンムリカイツブリ アオアシシギ
ダイサギ・アオサギ・コウノトリ

【作成意図】

渡良瀬遊水地は、茨城県（古河市）、群馬県（板倉町）、埼玉県（加須市）、栃木県（栃木市、小山市）の4県にまたがり、面積は33km²、湿地面積は日本で6番目（北海道を除くと最大）の大きさをほこります。渡良瀬遊水地では、多様な自然環境が保たれ、絶滅危惧種を含む多様な動植物が生息しています。平成24年には、世界的な自然環境に関する条約であるラムサール条約（「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」）にも登録されています。

遊水地を取り巻く10の市町（古河市、結城市、五霞町、境町、栃木市、小山市、野木町、板倉町加須市、久喜市）では、「トキやコウノトリなどを指標とした河川（渡良瀬遊水地を含む）及び周辺地域で多様な生物の生息可能な自然環境の保全・再生を推進し、地域振興・経済活性化に取り組む目的である会議が毎年開かれています。

多様な生物の生息可能な自然環境の保全・再生に対する取り組みの成果の一つとして、遊水地を中心に様々な野鳥が来ていることを「渡良瀬遊水地と周辺の野鳥たち」に一部をのせました。今後とも、取り組みが推進され、豊かな自然環境が促進されますことを願うものです。

渡良瀬遊水地野鳥観察会 関口 明